

環境報告書

2014

CONTENTS

- | | | | |
|----|--------------------------------|----|-----------------------------|
| 02 | トップメッセージ／環境宣言／会社概要 | 06 | 環境保全コスト／公害防止管理者数 |
| 03 | 環境管理体制／環境監査 | 07 | 地球温暖化防止への取り組み／
マテリアルバランス |
| 04 | 環境・リサイクル事業／
TOPICS メガソーラー事業 | 08 | 地域社会への貢献と地球環境の保全 |
| 05 | PRTR 届出数値／SO _x 排出量 | | |



トップメッセージ

責任ある企業市民として 循環型社会の実現を目指しています

東邦亜鉛グループは、環境への取り組みを経営の最重要課題と位置付け、環境保全活動に係る指針として「環境宣言」を表明し、併せてコンプライアンスのさらなる浸透を果たすべく、「東邦亜鉛グループ行動指針」を制定して、その周知徹底を図っています。また、各事業所では「環境方針」を策定し、ISO 14001に基づく環境管理活動を推進しています。

こうした当社グループの環境配慮等の取り組みについて説明責任を果たすため、このたび「環境報告書」を取りまとめ、発行することとしました。

当社グループは、今後とも責任ある企業市民として、地球環境の保全、資源循環型社会の形成や社会貢献活動等の社会的責任を積極的に果たしてまいります。



東邦亜鉛株式会社
代表取締役社長

手島達也

環境宣言

環境理念

私たち東邦亜鉛グループは、地球環境の保全を重要課題に掲げ、責任ある企業市民として将来にわたって住みよい社会を形成するために地域社会と良好なコミュニケーションを保ち、環境マネジメントシステムに基づき積極的に環境改善の活動に取り組みます。

基本方針

1. 環境マネジメントシステム確立の一環として、全事業所でISO 14001を取得し、環境目的、目標を定め、さらに定期的な見直しによって継続的な環境保全に努めます。
2. 国、地方自治体などの環境規制を遵守する事はもとより自主管理基準を厳格に運用し、将来にわたって汚染の予防と環境管理のレベル向上をはかります。
3. 事業活動が地域社会に及ぼす影響を認識し、全従業員の環境保全意識の向上のために、労使ともに相互信頼と責任を持って環境教育、啓蒙活動を行います。
4. 永年培った技術を生かし、社内外の再利用可能な資源のリサイクル事業を通して社会の省資源、省エネルギーに貢献します。
5. この環境方針を全従業員に配布するとともに、一般にも公開します。

2006年6月29日

東邦亜鉛株式会社 代表取締役社長 手島達也

会社概要

<http://www.toho-zinc.co.jp>

<経営理念>

当社は、

1. “顧客”を満足させる良質の製品・サービスを提供する。
2. “株主”の期待に応える業績をあげ、企業価値の増大を図る。
3. “従業員”の生活を向上させ、働き甲斐のある会社にする。
4. “地域”の一員として認められ、地域にとって存在価値のある会社を目指す。

以上をモットーに適正かつ最大の収益を目指して揺るぎない企業活動を遂行することにより、当社に関係するすべての人々の利益の増進と企業の発展・向上を図り、もって社会に貢献いたします。



設立	1937年3月5日
資本金	146億円
本社	〒103-8437 東京都中央区日本橋本町1丁目6番1号 丸柏ビル TEL:03-3272-5611 (代表)
代表者	代表取締役社長 手島 達也
事業内容	●製錬事業 ●資源事業 ●電子部材事業 ●環境・リサイクル事業 ●ソフトカーム事業
従業員数	単体 658名 連結 1,171名



環境管理体制

環境マネジメント

当社は、非鉄金属業界でいち早くISO 14001の認証を取得し、その規格に則って環境マネジメントシステムを運用し、環境負荷の少ない事業活動に取り組んでいます。ISO 14001の大きな特徴は、Plan(計画)・Do(実行)・Check(点検)・Act(改善)という「PDCA」サイクルを回して、事業活動が及ぼす環境への影響を継続的に改善していくことです。環境宣言で掲げた環境理念、基本方針の下、将来にわたって住み良い社会を形成するため、システムを効果的に運用し、環境負荷の低減に努めています。

環境管理推進体制

東邦亜鉛グループは、環境保全を経営課題の一つと捉え、環境問題の発生防止並びに万一の際の迅速な対応を図るため、本社に「環境管理委員会」を設置しています。社長が委員長を務め、取締役・執行役員・監査役の各委員で構成。毎月開催し、各事業所からの報告、委員会からの指示・伝達、全社的環境問題についての審議・検討を行っています。事務局は環境管理部が担っています。各事業所には「環境委員会」と「環境保安会議」を設置し、全社一丸となった環境管理推進体制を構築しています。



環境監査

認証機関の第三者監査と内部監査

当社の国内生産拠点である安中製錬所、小名浜製錬所、契島製錬所、藤岡事業所及び関連会社の中国環境分析センターは、それぞれ2001年にISO 14001の認証を取得しました。これにより、規格に適合したマネジメントシステムの運用がなされているか、第三者監査として認証機関が実施するサーベイランス、更新審査を定期的に受審しています。また、社内では、システムが適切かつ効果的に運用されているか、内部監査を実施。これらの監査を通じて、環境活動の継続的な向上を目指しています。

事業所名	認証機関	登録証番号	登録日	関連会社
安中製錬所	日本化学キューエイ(株)	JCQA-E-0335	2001年12月25日	子会社の安中運輸(株)含む
小名浜製錬所	(社)日本能率協会	JMAQA-E246	2001年11月9日	子会社の東邦キャリア(株)含む
契島製錬所	日本化学キューエイ(株)	JCQA-E-0276	2001年7月23日	
藤岡事業所	日本化学キューエイ(株)	JCQA-E-0316	2001年11月26日	
(株)中国環境分析センター	日本化学キューエイ(株)	JCQA-E-0269	2001年6月25日	



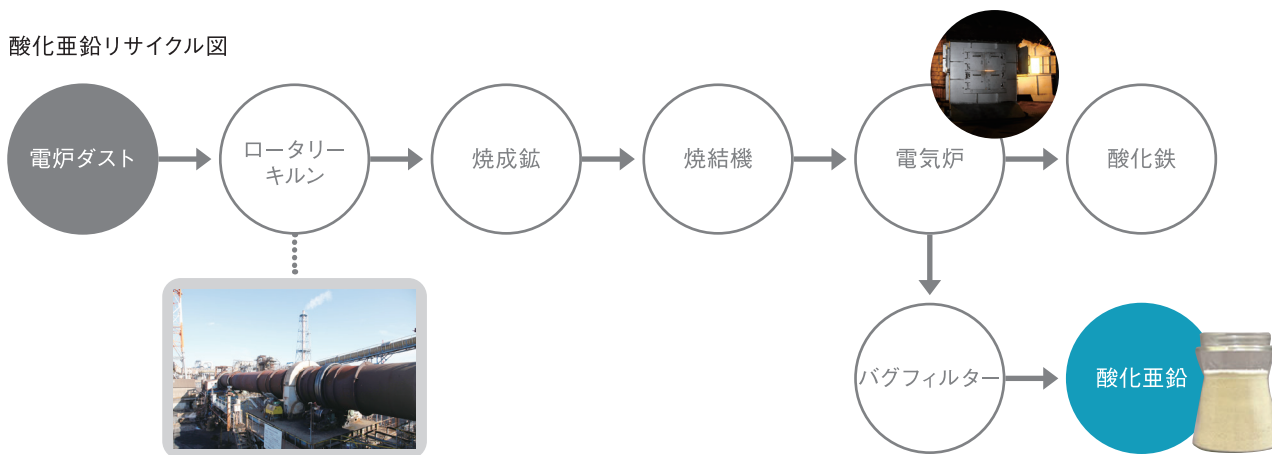
環境・リサイクル事業

世界唯一の技術を駆使した酸化亜鉛のリサイクル製品

廃棄物の資源有効活用として、小名浜製錬所で、電炉ダストから酸化亜鉛の再資源化を行っています。主原料の電炉ダストは、電気炉メーカーが鉄スクラップを鉄鋼にリサイクルする際に発生する集塵灰です。最終製品の酸化亜鉛は、商品名「銀嶺R」として主にタイヤの原料ゴムに必要な特性を持たせるため使用されています。この製造工程の途中で生まれる酸化鉄は防音建材の原料として使用されます。



酸化亜鉛リサイクル図



二次電池リサイクル事業

契島製錬所では使用済みの鉛バッテリーを鉛地金の原料としてリサイクルしています。また、小名浜製錬所においては使用済みのニカド電池を一般社団法人JBRCからの業務委託の中でリサイクルし、ニッケル、カドミウム原料として再資源化を行っております。これからも資源循環、環境負荷の低減により社会に貢献するため、各種リサイクル事業に力を入れていきます。

処理可能な産業廃棄物の種類 (小名浜製錬所)

	処理施設					
	亜鉛用流動焙焼炉		ばいじん等酸化亜鉛製造		鉄くず廃ニカド電池	
	焙焼・焼却・熱分解	水洗・ろ過・焙焼	焼成・焼結・蒸留	焼成	解体分別・焼成/乾燥・混合・焼成	回収
汚泥	○		○		○	
鉱さい			○			
ばいじん		○	○	○		
廃プラスチック					○	
金属くず					○	
廃アルカリ						○



TOPICS

メガソーラー事業

太陽光などによるエネルギーの導入を促進するため、平成24年7月、「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法」に基づく「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」が施行されました。これに伴い、当社ではメガソーラー発電事業への参入を決定し、藤岡事業所内にシステムを建設、平成26年4月、東京電力への電力供給を開始しました。

【事業の概要】

設置場所
群馬県藤岡市中387番地
東邦亜鉛株式会社
藤岡事業所内
設置面積
約16,000㎡
発電出力 約1MW
発電開始 2014年4月
投資額 約3億3,000万円





PRTR届出数値

2012年度及び2013年度 東邦亜鉛のPRTR対象物質の排出、移動量

当社は、「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」(化管法)により制度化されたPRTR(化学物質排出移動量届出制度)に基づき、毎年6月、化学物質の埋立処分や廃棄物移動等の届出を行っています。埋立処分は自社の処分場での埋立量、廃棄物移動は産業廃棄物処理業者への委託量です。各事業所では、設備等の改善を図り、化学物質の環境への排出削減に努めています。

(単位: t)

	大気への排出		公共水域への排出		埋立処分		廃棄物移動	
	2012年度	2013年度	2012年度	2013年度	2012年度	2013年度	2012年度	2013年度
亜鉛の水溶性化合物	0	0	2	2	0	0	0	0
鉛化合物	0	0	0	0	920	950	7	9
カドミウム及び化合物	0	0	0	0	3	1	2	2
砒素及び無機化合物	0	0	0	0	92	110	1	1
銅水溶性塩	0	0	0	0	0	0	0	0
アンチモン及び化合物	0	0	0	0	140	140	0	0
ニッケル化合物	0	0	0	0	0	0	1	1
コバルト及び化合物	0	0	0	0	0	0	0	0
水銀及び化合物	0	0	0	0	0	0	0	0
セレン及び化合物	0	0	0	0	0	0	0	0
ふっ化水素及び水溶性塩	0	0	8	9	0	0	0	0
ほう素化合物	0	0	2	2	0	0	0	0
マンガン及び化合物	0	0	0	0	990	1,500	0	0
トルエン	1	1	0	0	0	0	0	0
キシレン	1	1	0	0	0	0	0	0
エチルベンゼン	1	1	0	0	0	0	0	0
メチルナフタレン	0	1	0	0	0	0	0	0

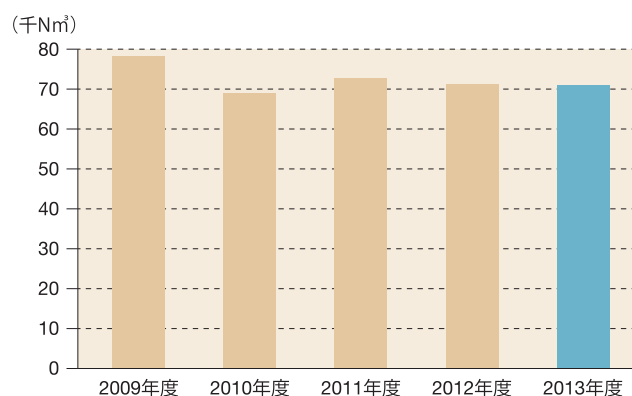
(単位: mg-TEQ)

ダイオキシン類	131	937	0	0	0	0	23	9
---------	-----	-----	---	---	---	---	----	---

SO_x排出量

大気汚染物質の排出を低減

硫酸化合物(SO_x)は、硫黄分を含んだ化石燃料を燃やすと排出される物質の総称です。代表的なものに、二酸化硫黄(SO₂)、三酸化硫黄(SO₃)などがあります。当社の事業活動においては、生産過程で重油を燃やしたり、亜鉛や鉛の原料を燃焼させたりすることにより、二酸化硫黄(SO₂)が排出されます。排出量は生産量に比例します。環境基準を満たして排出されますが、環境の負荷になりますので、低減の工夫、努力を積み重ねています。

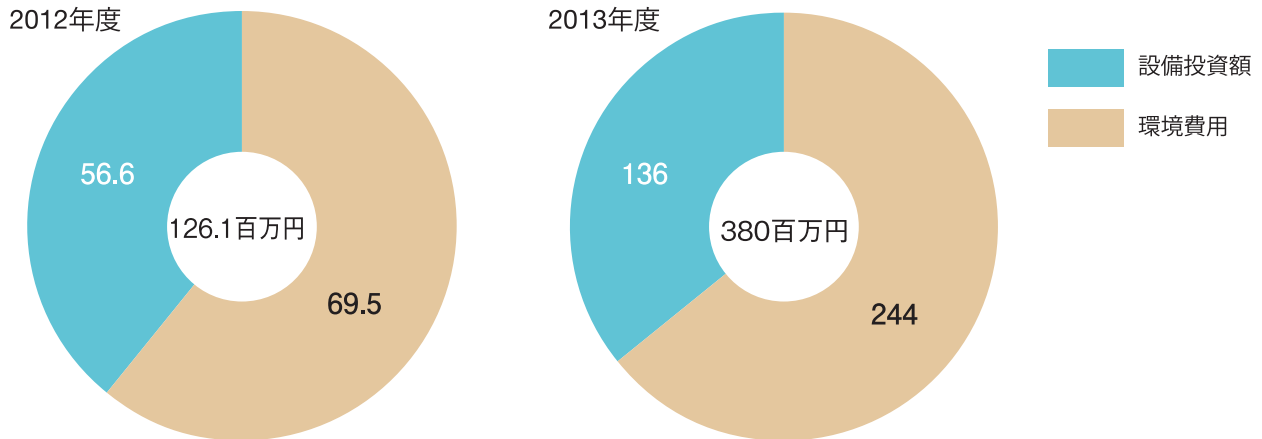




環境保全コスト

環境負荷削減のための環境設備投資額と環境費用

当社では、事業活動による環境負荷を低減するための設備投資額と費用を集計・分析し、環境保全効果の評価に活用しています。投資は設備の性能向上や集塵装置の設置、費用は廃棄物外部委託処理費などが挙げられます。契島製錬所では2012年度に熔鋳炉排出用ミストコットレル(湿式電気集塵機)を設置し、2013年度には脱硫煙突用ミストコットレルの設置工事を行っております。また、PCBを含有するコンデンサー類の処理を日本環境安全事業株式会社へ委託しました。2013年度の設備投資額は136百万円、費用は244百万円となりました。



公害防止管理者数

水質・大気など延べ171人が有資格者

社員の「公害防止管理者」国家資格の取得に力を入れています。「特定工場における公害防止」と、社員一人ひとりの公害防止に対する意識を高めるためです。社内講習や受験料補助などにより受験者を援助しています。既に、安中製錬所、契島製錬所、小名浜製錬所、藤岡事業所、本社を合わせて、「水質関係第1種」58人、「大気関係第1種」45人、「ダイオキシン類関係」52人など、社員延べ171人が有資格者となっています。

(単位:人)

	保有資格					
	大気1種	水質1種	騒音・振動	騒音	振動	ダイオキシン
安中製錬所	20	25	4	1	2	13
契島製錬所	10	12	0	1	0	8
小名浜製錬所	7	9	2	1	1	9
藤岡事業所	3	7	0	1	0	7
本 社	5	5	1	1	1	15
合 計	45	58	7	5	4	52

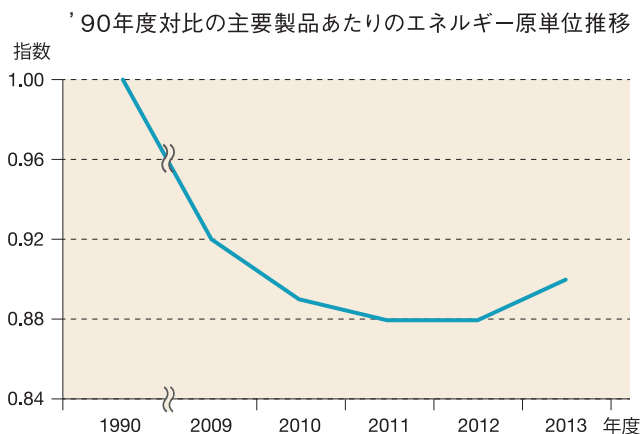
2014年7月現在



地球温暖化防止への取り組み

エネルギー原単位指数推移

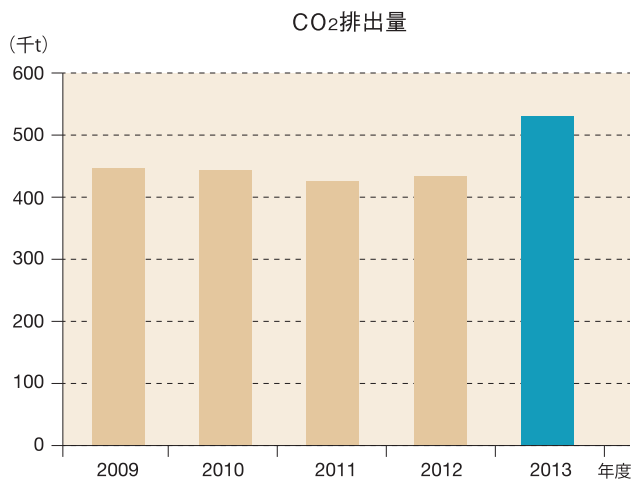
当社では、省エネの指標とするため、主要製品である電気亜鉛、電気鉛、酸化亜鉛、電解鉄の生産におけるエネルギー使用量(原油換算)と原単位を算出しています。各事業所では、電気や重油などをより効率良く使用できるよう、工夫・改善に努めています。その結果、エネルギー原単位は、1990年度の指数を1.00とした場合、減少傾向で推移しています。今後は新たな技術導入も視野に入れています。



CO₂排出量推移

環境負荷を評価し改善するため、生産活動で排出される二酸化炭素(CO₂)排出量を算出しています。重油だけでなく、使用した電気も原油換算で算出して管理し、より効率的な生産に努めています。

2013年度は、原子力発電所の停止により、火力発電による電力の使用が増え、CO₂排出量が大幅に増加しました。



マテリアルバランス

当社では、事業活動で使用する電気・重油などのエネルギーや水資源、排出物質を定量的に把握し、環境負荷の低減に活用しています。今後とも、循環型社会を目指して、省エネや環境負荷の低減に努めます。

2013年度 東邦亜鉛のマテリアルフロー(4事業所※)

使用量

ガソリン	29kL	上水道	366千㎡
灯油	2,067kL	工業用水	7,955千㎡
軽油	169kL	地下水	470千㎡
重油類	11,607kL	海水	17,469千㎡
LPGガス	40千㎡		

排出量

CO ₂	533千t	排水量	24,469千㎡
-----------------	-------	-----	----------

※安中製錬所、契島製錬所、小名浜製錬所、藤岡事業所



事業所周辺のボランティア活動

地域社会への貢献や地球環境保全のため、安中製錬所、契島製錬所、小名浜製錬所、藤岡事業所の各生産拠点では、森林整備・清掃などのボランティア活動に積極的に取り組んでいます。安中製錬所は、群馬県安中市が所有する「天神山自然の森公園」（約2ヘクタール）の下草刈りや伐採を実施。年2回の活動日には、毎回100名以上の社員・社員OB・家族が参加し、自然とのふれあいを楽しみつつ作業を行っています。

天神山自然の森公園の
森林整備活動



社員・社員OB・家族が
ボランティアで参加



防災活動

海に囲まれた契島製錬所は、海上防災訓練を毎年実施。このほか、呉海上保安部の指導による「オイルフェンス張り」の訓練や、地元・大崎上島消防署との合同消防訓練も行っています。小名浜製錬所は、緊急通報や初期消火、自衛消防団による消火などの総合消防訓練を毎年実施。また、12社で構成する「小名浜共同防災協議会」に加盟しており、小名浜消防署と協議会の消防車を招いて消火訓練を行っています。

重油流出を想定した
オイルフェンス張りの訓練



小名浜共同防災協議会
事業所訓練



地域行事への参加

安中製錬所がある群馬県安中市は日本におけるマラソン発祥の地であり、毎年「安政遠足 侍マラソン」が開催されています。当社からは10数名のランナーと応援スタッフが参加、大会を盛り上げています。また安中城址にぎわい朝市に出店。契島製錬所も産業フェスティバル参加など地域活性化に努めています。



小学生の社会科見学

安中製錬所では、社会科見学授業の一環として行われる工場見学を受け入れています。訪れる小学生たちは大きな工場に目を見張り、活発に質問。興味を深めてもらえるよう分かりやすく説明しています。なお、丘陵地にあり壮大な景観を見せる安中製錬所は、子供たちから「天空の城」と呼ばれています。